

タイトル	スマイルプロジェクト ～大きなことを考えて小さなことから始めよう～		
氏 名	西堀 恵子		
学 校 名	東近江市立能登川南小学校		
担当教科	全教科(英語活動)		
実践教科	道徳・社会科・ 総合的な学習の時間	時 間 数	36時間
対象生徒学年	4年月組	対象人数	31人

カリキュラム案

(1) 実践の目的

- ・タンザニアを通して、自分とは背景の違う人がいることを知り、共生していこうとする態度を育てる。
- ・今、生活している「当たり前」にある生活が幸せであることと、その幸せは様々な人々の支えによって成り立つことを知る。
- ・世界の実情を知り、全ての人たちが幸せに暮らせるようになるために、自分たちに出来ることから行動する力を育む。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ：「世界がもし100人の村だったら」 ねらい：当たり前にある幸せを知る	・「世界がもし100人の村だったら」読み聞かせ ・自分たちが数字のどこに入るか知る。 ・学習したことについて話し合う→感想を書く。	「世界がもし100人の村だったら」
2～5 限目 テーマ：タンザニアを知ろう ねらい：タンザニアの文化や生活習慣について知る。 (保護者に授業公開)	① フォトランゲージでタンザニアの町の様子を知る。 ② ・地図帳とGoogle Earthでタンザニアの位置を確認する。 ・モノランゲージで何に使われているのかを考える。 ③ ランキングで、タンザニアの子どもと4年月組の大切な物の違いを知る。 ④ タンザニアの様子をDVDで知る。感想を書く。	①写真 ②くし・太鼓・親指ピアノ・カンガ・キテンゲ・ろうそくたて・ネックレス ③アンケート結果と写真 ④DVD

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
6～10限目 テーマ:「くらしと水」 ねらい:タンザニアと世界の水事情について知ると共に、自分の生活を見つめ直す。	① 世界のトイレ ・フォトランゲージで何に使うものか考える。 ・タンザニアやドバイ、世界のトイレについて学び、日本と比較する。 ・バケツにおもりを入れ、頭に載せて教室を回る。 ・バケツリレー体験 ② 飲み水について知ろう ・タンザニアの水環境について知る。 ・世界の水環境について知る。 ・自分たちの生活を見直す。	①写真・バケツ・教科書 ②写真・ワークシート
11～15限目 テーマ:便利でエコな布 ～カンガとことわざ～ ねらい:カンガについて知り、物を大切にすることを育てる。	① ハロウィンパーティーをしよう ② カンガについて知ろう ・カンガとふろしきやゆかたを比較する。 ③ カンガファッションショーをしよう ④ ことわざについて知ろう ・カンガセイイングとことわざの比較 ⑤ ことわざを作ろう	①変装セット ②カンガ、キテンゲ、写真 ③カンガ、キテンゲ、マサイ族のシュカ、ふろしき、ストール ④ことわざ辞典 ⑤ワークシート
16～19限目 テーマ:食を知ろう タンザニアと世界の食事情 ねらい:世界の食文化を知り、食べ物を大切にする心を育てる。	① タンザニアやドバイの食べ物を知ろう ② 主食って? ③ 世界の食糧と飢餓、地産地消	①写真、デーツ ②写真 ③JICA ホームページ「ぼくら地球調査隊」
20限目 テーマ:世界で活躍する日本人 ねらい:世界で途上国のために活躍している人を知る。	・JICAの職員、青年海外協力隊のことを知ろう ・電気をタンザニアの人々に届ける、送電所で働いている日本人	JICA 青年海外協力隊資料 写真
21～24限目 テーマ:世界に目をむけてみよう。 ねらい:世界を知る。当たり前にある幸せを知り、自分の生活を見つめ直す。	① 学校に行きたくても行けない子どもたち ・フォトランゲージで、なぜこの子は学校に行けないのかを話し合う。 ② 貿易ゲーム ③ おなじとちがい、ちがいのちがい ・タンザニアの人々と違う所から、あっていい違いとあってはならない違いを見つける。	①写真 ②画用紙、はさみ、のり、封筒、おもちゃのお金、鉛筆、ホッチキス ③模造紙、マジック、ワークシート

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
25～36限目 テーマ：4年月組スマイルプロジェクト～大きなことを考えて、小さなことから始めよう。 ねらい：世界中の人々がスマイルになるために、自分たちができることを考えて、行動にうつす力を育てる。	① 無人島ゲーム ・無人島に行く時に必要なもの10個をグループで話し合い、選ぶ。 ② 見つけよう、みんなにできること ・グループで、ブレインストーミングをし、自分たちにできる支援はどんなことがあるかを話し合う。 ③ 発進！スマイルプロジェクト ・自分たちでできることを調べて発表する。 ・自分たちに出来ることを行動にうつしたり、呼びかけたりする。	①ワークシート、模造紙 ②ワークシート、模造紙 ③ワークシート、模造紙、パソコン

実践授業の詳細

全ての授業は公開授業として、本校の教員に公開した。

2～5限目「タンザニアを知ろう」の詳細

子どもたちだけでなく、保護者にもタンザニアや世界のことについて知って欲しいと思い、授業を公開した。

保護者の感想

- ・タンザニアの学習を通して、毎日のように学んだことを家族に話してくれ、嬉しく思います。世界や視野が広がったようです。お姉ちゃんが知らないことを話すので、ちょっぴり得意気です。
- ・子どもたち同様、「そうなんだ～」と興味深く聞かせていただきました。私たちは普段もったいないことをしているのですね。頭ではわかっているのですが、なかなか難しいです。子どもといっしょにできることを改善していけたらと思います。

11～15限目「便利でエコな布～カンガとことわざ～」の詳細

- ・ことわざについて学習した後、カンガの名前の由来やどこで着られているのか、何通りも巻き方があること、ことわざが書かれていて、それを相手に伝えるために見せて着るということに興味を持っていた。特にデザインよりもカンガに書かれている言葉を重視していることに驚き、自分たちは言葉よりもデザイン重視で服を選んで買ってもらうことと比較し、ちがいに驚いていた。
- ・日本の物と比較するためということと、カンガが人数分足りないということのために、児童にはふるしきを持ってこさせた。中にはファッションショーのことを想定して、ストールやマフラー、テーブルクロスを持って来ている子もいた。タンザニアではカンガは女の人が巻く物だと学習したが、男女ともにカンガのデザインやカンガセイイングなどに興味を持ち、楽しく巻いてファッション

ンショーをしていた。休み時間にも楽しんで巻いて遊ぶ児童が多かった。

- ・カンガとふろしきや浴衣と比較していくうちに、カンガが色々な用途に使われ、古くなったら赤ちゃんのおむつやぞうきんになること、昔は浴衣と同じようにぼろぼろになるまで使用していたことを知って、自分たちが服を無駄にしているということに気づけたようであった。



カンガの本を見ながら。



男の子も女の子もファッションショーに参加

25～36限目「4年月組スマイルプロジェクト」の詳細

< 無人島ゲーム >

前時にクラスの子どもたちと、小学生版貿易ゲームを行ったが、男女ともに仲の良いクラスのため、非常に穏和なムードでゲームが進行した反省点を踏まえ、物が無いと何が必要になるのかということ在必死に考えて欲しいと思い、このゲームを取り入れた。

普段、物があふれている生活を送っている子どもたちだが、10個という限られた数の物しか無人島に持って行けないと言うことで、ああでもない、こうでもない、と意見を交換し、必要な物を考えていた。グループの中には、「必要な物が多すぎて、書ききれない」と言っているグループもあった。また、必要な物の中に、「虫歯は病気になるもとだから、歯磨きセットが必要」という、意外だが、的を射た面白い意見も出た。「これらが途上国に必要な物資かもしれないよ」と言うと、自分たちがいかに無駄の多い生活や、物にあふれた生活をしているかを実感していたようだった。

<ブレインストーミング>

- ・学級目標に掲げている「大きなことを考えて、小さなことから行動しよう（Think globally, Act Locally）」に基づき、自分たちにできることをしていこうと考えた。
- ・ちがいのちがいを考えたり、貿易ゲームで、「ありがた迷惑な支援」と「不公平」を体感し、無人島ゲームを通して、途上国の必要な物を知ったので、「自分たちが途上国のためにできること」を考え、出来ることを行動に移して欲しいと思い、ブレインストーミングを行った。沢山の意見を出

させるためにも、①人の意見にケチをつけたりバカにしない。②自分の意見も批判しない。③たくさんさんの意見を出す。というルールで行った。

- ・子どもたちからは、「おやつをがまんして、募金する。」「教室のごみを拾う。」などと言う身近な意見から、「今、勉強を頑張って、将来は教師になって困っている子どもたちに勉強を教えてあげたい。」「お金を貯めて、海外へボランティアに行く」という将来的な考えも出てきて、深い話し合いが出来た。

<スマイルプロジェクト>

2学期に学習してきたタンザニアや世界のこの中で、興味をもった内容をさらに深めて、調べて発表したり、ブレインストーミングから出てきた意見から、世界の人がスマイルになるためにできることを行動にうつしていこうという取り組みを行った。以下はグループの取り組みである。

「世界のことを知り、伝える」グループ

自分たちが知らなかった貧困や水不足、地雷や戦場に送られる子どもたちのことから、イスラム教の文化、世界のマクドナルドについて、幅広く調べ、小冊子にまとめて児童や校長先生に見てもらうために配布をした。

「地産地消」グループ

日本の食糧自給率の低さと、輸入に頼るせいで他国が貧困にあえいでいることを調べ、それを解決するために地産地消の大切さを呼びかけ、校内に調べたことを展示した。今後はお家の人に「高いけど国産のものを買って」と言ったり学級通信などで呼びかける予定。

「スワヒリ語」グループ

スワヒリ語のあいさつや数字の言い方について調べて紹介。現在は「いただきます」をクラス全員スワヒリ語で行う活動をしている。

「自分でできる小さなこと」グループ

自分たちでできる小さなことを考え、朝の会などで「くつをぬいだらそろえよう」という簡単なことを積み重ねていこうと呼びかけている。

「ボランティア」グループ

世界や日本にあるボランティアについて調べたり、子どもたちでもできるボランティアを紹介。

「カンガ」グループ

カンガの由来から絵柄、カンガセイイングを調べて紹介。カンガのように色々なものをぼろぼろになるまで使おうと呼びかける。

「手紙」グループ

絵や折り紙が得意な子どもたちが集まり、自分たちが世界の人にできることは、折り紙や手紙を書いて元気づけてあげること。と、日本の文化を紹介する手紙や折り紙を作成。現在手紙を送る相手先を探している。

「タンザニアの子ども」

孤児院の子どもたちの写真を見て、なぜ大変な生活なのに笑顔なのだろう。と疑問に思い、タンザニアの学校制度や子どもの生活について調べる。タンザニアの子どもたちは日本の子どもたちに比べ、お手伝いをたくさんしていることがわかり、お手伝いを学校で頑張ったり、家でお手伝いをしようと呼びかける。

「キャップ・プルトップ」グループ

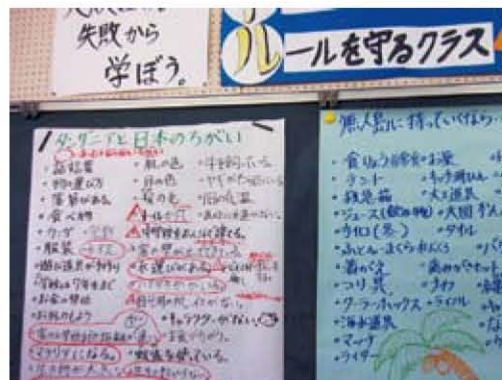
学校で取り組んでいるプルトップやペットボトルのキャップ回収は、どのようにすれば何になるのかを調べる。車いすやワクチンになることを見つけ5・6年のボランティア委員やエコスクール委員に混じって、回収の協力を呼びかけたり、ベルマークの集計を手伝っている。

児童の感想

- ・私は今まで、着なくなった服やいらない物は、どんどん捨てていました。けれど、この授業を勉強して、自分がとてももったいないことをしていたのだということがわかりました。これからは、着なくなった服を捨てないで、市役所にもって行って、困っている人たちにあげたり、しんせきの子にあげたり、ママにたのんでフリーマーケットで売ったりしたいです。
- ・カンガを先生に見せてもらった時、きれいだなあと思っていたけれど、カンガは服だけではなくて、赤ちゃんのおんぶひもや、テーブルクロスや、かばんになったりして、すごいと思いました。しかも、カンガはおむつやぞうきんになって、ぼろぼろになるまで使います。おばあちゃんから、浴衣はおむつやぞうきんにしていたということを聞いていたけれど、今もタンザニアの人はカンガを大切にしています。エコだと思います。もっとわたしも色々なものを大切にしようと思います。いつかカンガをいっぱい買いにいきたいです。
- ・人を助けるのは大人にならないと無理と思っていた。ぼくもできることをやります。困っている子がいたら助けてあげたいです。大人になったら外国の困っている人の所へ助けにいきたいです。でも、ありがためいわくにならないようにしたいです。
- ・日本に生まれて幸せということがわかりました。かにさされても、マラリアで死なないし、落第もなくてよかったです。でも、勉強をしっかりしようと思いました。いやだけど、がんばろうと思います。そして人の役に立ちたいです。

授業を通しての変化

- ・もともと給食をよく食べるクラスであったが、飢餓に苦しむ子どもたちのことを知り、今まで以上に「いただきます」「ごちそうさま」を心をこめて行い、残飯を残さないようになった。
- ・今までは自分中心にものごとを考えていることが多かった子どもたちが、世界規模で考えられるようになってきたり、視野が広がったりした。少し相手を思いやる気持ちが生まれたように思う。
- ・2学期末の懇談会で、「男女とても仲がいいけれど、さらによくなりましたね」と保護者から言われた。
- ・カンガの学習を通して、「自分たちもカンガを作りたい」と、はぎれを使って刺繍をし、手作りカンガを縫っている。驚いたのはクラスのやんちゃな男子も刺繍をして、不器用ながらもカンガを作っている姿である。非常にほほえましかった。



毎日すっからかんの給食の入れ物。

実践授業を通しての所感・反省と今後の展望

この授業を通して、子どもたちを変えたいと強く願っていた。不登校気味の子、給食に文句を言う子、勉強にやる気が無い子、どれも幸せな悩みだと。…虐待など背景に様々な問題を抱えている子どももいるが、希望をもって生きていって欲しいと思った。そして、学ぶだけではなく、自分たちができることを少しでもやろうと行動に移して欲しいと思い、このプロジェクトを実行した。

子どもたちのタンザニアのイメージは、「お腹をすかせている人がたくさんいる」や「貧しい人がたくさんいる」というマイナスイメージが多く、プラスのイメージは、せいぜい「動物がたくさんいる」ぐらいで、私がタンザニアへ行くという話をしたら、「無事に帰ってこられるのか」と心配してくれる子が多かった。タンザニアのことを教えていくにあたって、途上国は「かわいそう」だとか、「みじめ」などと、途上国を上目線から見て欲しくないと思ったので、なるべく身近なものや、楽しそうな笑顔の子どもの様子を写真に撮ったものを見せ、身近に感じさせた上でタンザニアの貧困などの抱えている問題を伝えていくことにした。子どもたちに伝えたいことが沢山あり、厳選して伝えていくのが大変難しかった。

子どもたちは1日1ドル以下でクラス人がたくさんいることや、学校に行きたくても行けない子どもたちがいること、食べたくても食べ物がなく、お腹をすかせている人々がいることを知って、とてもショックをうけていた。トイレや水の勉強で「タンザニアに行きたくない」と言った子がいて、（そういう意見もあっていいと思うが）しまったと思ったが、自分たちと同じように、ダンスが好きだったり、元気にサッカーをしていたり、にこにこ笑顔でカメラにむかっている子どもたちの姿をカメラや映像を通して見たことや、美しいカンガやティンガティンガなどの文化にふれたことによってタンザニアを身近に感じたり、「タンザニアに行ってみたい」「すてきな国なのだな」と最初のイメージからプラスのイメージに変化してよかった。また、そこから、タンザニアの人が笑顔で過ごしてほしいと色々考えて行動に移していこうという動きにつながり、子どもたちも変わってきている。簡単なことを行動に移すことで、自分たちでもできる支援があるのだと自信につながった。3学期はさらにタンザニアから世界のことについて学習を深めると共に、引き続き世界の人々を笑顔にできるよう、自分たちにできる簡単なことを行動に移していくような指導をしたいと思う。